

議員派遣行政視察報告書

視察期間 平成 29 年 3 月 30 日（木）～31 日（金）

視察先 成田市 「もりんぴあこうづ」について
子どもの居場所、複合施設、公民連携について

大和市 「大和市文化創造拠点シリウス」について
子どもの居場所、複合施設、公民連携について

視察議員 大川原 成彦
わたなべ 謙二郎

委員会行政視察報告書

委員氏名 大川原成彦

調査の期間	平成 29 年（2017 年）3 月 30 日（木）～31 日（金）
調査先 及び 調査事項	千葉県成田市 「もりんぴあこうづ」 子どもの居場所・複合施設・公民連携について 神奈川県大和市 「大和市文化創造拠点シリウス」 子どもの居場所・複合施設・公民連携について

千葉県成田市 「もりんぴあこうづ」
成田市は市域 213 km ² 、人口 13 万人を有し、なお人口増加が続いている。南東部に位置する成田国際空港は開港後 40 年近くが経過し、かつて主要産業であった農業にかわり、空港関連事業を主力とする第三次産業従事者が最多となっている。また南西部に展開するニュータウンは、首都圏通勤圏として拡大し、「もりんぴあこうづ」の位置する公津地域は、京成電鉄が約 20 年前に新設した「公津の杜駅」を中心に設計された計画都市である。
<設立までの経緯>成田市では、地区内の人口が概ね 1 万人以上の集積があり、地理的状況等により、公共サービスを受ける環境が整っていない地区においては、各団体の相互交流や多様な市民の参加により、地域の特性を活かした地域社会づくりを展開することを目的としたコミュニティ活動の拠点施設として、コミュニティセンターの整備を進めることとした。平成 17 年の三里塚コミュニティセンターの開設に続き、平成 25 年に市内 2 館目の施設として公津の杜コミュニティセンターが「公津の杜複合施設整備計画」の下、開設された。
<なぜ複合施設か？>「公津の杜複合施設整備計画」は、以下 3 点の課題解決を図るためにすいしんされた。①地域コミュニティにおける課題：公津の杜地域は計画都市として人口増加が見られる新しい街であり、地域コミュニティ活動の形成や促進に資する公共施設の整備が急務となっていた ②子育て支援における課題：子育て世代が多く暮らす公津の杜地域で在宅保育家庭の支援等、子育て支援拠点の必要性が高かった ③図書館行政における課題：

市内図書館の中心となる成田市立図書館の他に14の図書室があるが、いずれも蔵書数が少なく、一定規模以上の分館整備が急務となっていた。
<立地条件>
イベントの集客要素としてアクセスが良好である駅等の公共交通機関に近くとし、京成電鉄公津の杜駅より徒歩5分に市氏、公共施設用地として、平成9年に成田市土地開発公社が取得した土地とした。
<整備手法の検討>計画当初にPFIを検討したが、期待された事業費の削減効果が見込めなかったことから、従来型の公設方式での施設整備とした。
<費用>①イニシャルコスト：32億86百万円 ②ランニングコスト：63百万円 ③利用料金収入9百万円
<指定管理>市と指定管理者とのパートナーシップにより、それぞれのノウハウを最適な形で組み合わせることにより、施設の効果を最大限に引き出し、市民サービスの向上と活性化を図ることができるとの考えにより、開館当初より指定管理者制度を導入。指定管理者は東京都目黒区のアクティオ(株)。選定理由は、実績に基づいた地域連携の具体性、中高年を対象とした世代間交流事業・国際医療福祉大学との連携事業等の当施設のコンセプトに合致した提案、管理経費コントロールの合理性、など。1期目の3年半が経過し、この4月より2期目の5年間に更新している。
<公共施設マネジメント的効果>「成田市公共施設等総合管理計画」が29年3月に策定され、
今後、当計画に基づき評価・管理されていくことになる。
<利用状況>開館より3年半が経過し、年々利用者増・稼働率上昇が続いている。キッチンスタジオ等特殊な部屋は別として、会議室や音楽・ダンス向けスタジオ、ギャラリーは稼働率が50~70%にもものぼる。計画当初は大型ホールも検討されたが、市民ニーズと経済効率の観点から200席クラスの多目的ホールとしたことで大変評判がよい。可動式パネル導入のギャラリーも使い勝手がよい。施設全体として見通しのよい作りとなっている。
<子育て支援拠点として>3Fの「わんぱくルーム」は、公津の杜小PTAの意見を参考に就学児童向けの放課後子どもの居場所づくりのスペースとして設置。コミュニティーセンター施設の一部となる。1Fの「なかよしひろば」は、乳幼児と保護者を対象にした親子で遊

<p>べるスペースで。コンセプトは、気軽に立ち寄れる、子どもが家でできない遊びができる、親の気分転換、情報入手、子ども交流・親子交流、子育て相談等である。6割の利用者が週3回程度利用するリピーターの多い施設。</p>
<p>神奈川県大和市 「大和市文化創造拠点シリウス」</p>
<p>大和市は市域 27 km²、人口 23 万人を有し、人口は微増が続いている。鉄道は中央部を東西に相鉄本線、南北に小田急江ノ島線が走るほか、北部に東急田園都市線が乗入れ、狭い市域に 8 駅がある。このため、市内のどこからも最寄り駅まで約 15 分前後で行ける上、新宿・渋谷・横浜にそれぞれ 1 時間以内で移動できることから利便性が高い。</p>
<p>＜設立までの経緯・複合施設＞相模鉄道本線と小田急江ノ島線が交差する大和駅周辺は、30 年ほど前から再開発の検討がなされてきた市内の拠点地域であるが、一部を除いて再開発の事業化は進展してこなかった。当初、「シリウス」の整備用地では大型マンション＋公共施設の計画があったが、リーマンショックで頓挫した経緯がある。その後、市内の文化施設の陳腐化、特に昭和 40 年代建設の 600 席足らずのホールは老朽化が進み、まともなギャラリーもなかったことから、市長が先頭にたって当施設の設置を計画した。出発点は大型ホールの建設であったが、ギャラリーや、離れて古かった図書館と生涯学習センターを組み入れ、「大和市文化創造拠点シリウス」が構想されていった。事業者である再開発組合には、地域との連携・融合にも視点を於くよう注文するなど、市としての必要水準を要求しながらの設立となった。「武蔵野プレイス」がモデルといわれているが、市長の提案で、全館が図書館といった独自のコンセプトも採用されている。</p>
<p>＜費用＞①イニシャルコスト：事業費全体で 213 億円（147 億円の保留床購入費を含む） ②ランニングコスト：総額 8 億 85 百万円（指定管理料：7 億 98 百万円＋光熱水費 87 百万円） ③利用料収入 97 百万円（予算ベース）</p>
<p>＜指定管理＞館内 4 つの施設を 6 つの会社で構成される J V 「指定管理者やまとみらい」が受託。それぞれの得意分野を、スペシャリストが担う。ホール→サントリーパブリシティーサービス（株）、図書館→（株）図書館流通センターなど。その他（株）小学館集英社プロダクション、（株）明日香、（株）ポーネルド、横浜ビルシステム（株）</p>
<p>＜利用状況＞1000 席クラスのメインホールは 70%、270 席のサブホールは 90%の稼働率を誇る。生涯学習センターの稼働率は 50%、全館の利用者は昨年 11 月のオープンから 140 日で 108 万人を超える予想を上回るペースで、1 日平均 7000 人にのぼる。アンケートによ</p>

れば、利用者の7割が市内、3割が市外在住であり、最多世代は60代、女性が多いとされる。図書館としての席数は全館で847席という大容量で、一部有料席も利用が多い。開架式書棚のスペースは子ども向けコーナーは子ども目線の設定であり、ジャンル別の書棚も充実、地元出身作家の特設や遺跡関係の展示も見ることができる。3Fの「元気っこ広場」は3歳から小2の幼児・児童を対象とした親子の遊び場で、有料施設だがスタッフによる各種遊びの提案など充実した施設となっており、市域外からもわざわざ遊びに来る親子も多いという。

<子育て支援拠点として>

3Fにはその他0～2歳児親子対象の「ちびっこ広場」、「おはなしのへや」「こどもシアターブース」「ベビーカー置き場」「相談室」「保育室」「多目的室」「赤ちゃんの駅」など子育て支援施設が集積している。全市的には、市庁舎内の保健福祉センターの他、青少年センター、子育て支援センター、公立保育園四園、ファミリーサポートセンター、こども～る3カ所と市域内の各所に点在する拠点にて、集い、相談、情報の場を提供しており利便性が高い。

以上

議員派遣視察報告書

議員名 わたなべ 謙二郎

平成 29 年 3 月 30 日 千葉県成田市 もりんぴあこうづ

○成田市の概要

- ・人口 約 13 万人 増加傾向だが、地域差がある。
- ・面積 213.84 km²

○施設について

もりんぴあこうづの最寄り駅である公津の杜駅周辺はもともと農地で、公津の杜地域は区画整理事業により開発された新興住宅地であり、人口が増加している地域である。市内 10 地区のうち公津地区は人口約 3 万人で、施設周辺の公津の杜 1～6 丁目までの住民は約 9500 人である。

開発に合わせて、地域に必要な機能を集約した複合施設として建設した。当初は P F I 手法による建設を検討したが、ホールの規模を市民利用に設定して席数を減らしたため、V F M が低くなり、P F I にはなじまず。公設指定管理により、347 日運営されている。

○館内

1F

図書館、学習室、なかよしひろば

なかよしひろばは児童福祉法の地域拠点事業として市内 3 ヲ所で N P O へ受託運営により開設されている。子供が家でできない遊びができる、親の気分転換になるといった声があり、気軽に立ち寄れる施設として好評である。1 歳 6 カ月以上の利用者が多く、利用者の 6 割が週 1 回以上利用している。講座・イベントの開催、情報提供、相談対応も行っている。なかよしひろばの利用者数は 43,250 人（平成 27 年度）である。

2F

ホール、ギャラリー、会議室

稼働率はおおよそ会議室 40～50%、キッチンスタジオ 11%、ギャラリー 50%、

3F

スタジオ、わんぱくルーム、屋上テラス

わんぱくルームは放課後の子供の居場所で、年間 20,804 人が利用（平成 27 年度）。

鏡張りのレッススタジオが約 70% である。近年、このような施設ではダンスの練習に対応できる姿見の鏡を備えた部屋が増えている。

○利用者数

- ・年間利用 約 18 万人
- ・アンケートによると、
- ～20 歳 11%
- ～39 歳 32%
- ～60 歳 33%
- ～80 歳 22%
- 男女比 4 : 6

勤労者 49%主婦 25%無職 10%

市の主催事業はフリーペーパーや市の広報を使うので、公津地区以外からの利用もある。

○運営費・事業費

- ・約 33 億 内訳＝土地約 10 億円、委託料約 7500 万円、工事費約 21 億円、備品購入費約 7450 万円
- ・図書館となかよし広場を除く運営費は約 6279 万円で、うち指定管理料年間 5894 万円。
常勤職員 5 人、パート 9 人、指定管理の期間は 5 年。
- ・利用料収入 約 932 万円

利用料収入の 1/3 を利用者還元する決まりで、これまで場内の様子が見えるモニターを設置した。予想以上の利用料収入だったため還元率を 1/5 に変更する予定である。

○その他 特記事項

図書館に英語の本や絵本がある。成田市は低学年から英語教育を実施しており、成田空港からの観光客とコミュニケーションをとる実習など英語教育に力を入れている。

平成 18 年に 2 町と合併したこともあり、人口増減に地域格差がある。小学校を統合し義務教育学校にする、遠方への通学にバス代補助をしている地域もある。

平成 29 年 3 月 31 日 神奈川県大和市 文化創造拠点シリウス

○大和市の概要

- ・人口約 23 万人 増加傾向である。
- ・面積 27.09 km² 東西 3.22 km 南北 9.79 km 東西と南北に私鉄が走っている。
- ・「健康都市 やまと」「60 歳代を高齢者と言わない都市やまと」宣言をしている。

○施設について

駅前の再開発に合わせて、市内の別の場所にあった図書館と生涯学習センターを移転し、複合施設を建設した。

1~6 階までが全て図書館というコンセプトである。ここが中央図書館として機能しており、市内にある分所でここにある書籍を借りることも可能である。

指定管理者の決定にあたって、3 団体申し込みがあり、一般公募委員も含む審議会で決定した。

期間は 5 年で、コンセプトに応える内容かどうかを重視した。

○館内

1F

ホールがメインで、カフェを併設している。基地の航空機音や地下を走る電車対策として設置した防音・音響設備が優れており、ホールとしての評価が高い。

これまで市内に昭和 40 年代に建設された 600 人規模のホールしかなく、文化施設もなかったことから、1,000 人規模のホール建設は市民の念願だった。

利用率はサブホール約 9 割、大ホール約 7 割である。利用に際して減免制度がある。ホールの有料公演が少なく収益面で今後の課題である。

2F

有料のラウンジと住民票等の交付をおこなう市役所の連絡所がある。

全館で 800 席近い無料席があるにも関わらず、ラウンジは一般の図書館と比較して利用制限が少ないため、利用ニーズが高い。

3F

子供関連のスペース

- ・ちびっこ広場 対象 0~2 歳
- ・げんきっこ広場 対象 3 歳~小 2

げんきっこ広場は有料で、月に約 5000 人が利用している。春休み中ということもあり、訪問した平日の午前中でも利用者が多かった。

※市内を北中南の三部に設定して、子育て支援拠点 3 ヲ所をそれぞれショッピングセンター内に設置している。その他の育児拠点として民間移管した保育園を活用している。

4F

健康関連の書籍や健康コーナー、健康テラス、特区であるロボットのコーナーがある。
健康テラスでは、利用者を集めるため、毎日イベントを開催している。

5F

図書館。各階に自動貸し出し機、返却装置を設置している。地域資料コーナーがあるが、こういった展示物は単体の資料館では訪問者が少ないが、併設していることにより、接する機会の増加につながっている。

6F

生涯学習センター

会議室の稼働率は約4割である。訪問した午前中でも利用率が高かった。企業の研修や面接等にも使用が可能であるが、夜の利用が少ない。

実習室にはスチームオーブン、文化創造室には3Dプリンター設置されている。

○利用者数

11月オープンから約108万人利用 1日平均約7000人の来館。持ち出し防止のタグで出入り数を管理。アンケートによると利用者の約7割が市内。当初の想定より高校生の利用者が多い。

○事業費・運営費

- ・初期投資は約213億円で、そのうち約147億円が再開発の土地購入費用である。
- ・年間の指定管理料は約8億円で、スタッフは133名。
光熱費は見込み不可能なため、指定管理料とは別に予算約8000万円。
- ・利用料収入見込みは約9700万円。

本市施策への提言

両施設に共通することは、

- ・複合施設ありきではなく、必要な機能を満たすための手段として複合施設となった。
- ・対象とする住民が利用しやすい立地にある。
- ・民間への指定管理により、人を集める仕掛けづくりに絶えず取り組んでいる。

1

図書館や博物館といった施設は市民にとって必要な施設であるが、利用料収入で運営費が賄える施設ではない。施設周辺の市民だけでなく、市内全般からより多くの市民が利用する、したくなる施設として、利用の促進に取組み、利用者を増やすことがより公平な市民サービスである。

西宮市都市計画のマスタープランでは、阪神西宮駅・JR西宮駅周辺は阪急西宮北口駅周辺と同じく、都市核として行政機関の集まる拠点として位置付けられている。

おおむね 20 年後に耐用年数を迎える本庁舎の在り方を考える際に、西館、南館、市民会館、六湛寺公園、六湛寺南公園などを活用して、周辺の公共施設を集約することが公共施設マネジメントの観点から必要である。併せて、立地が良いとは言えない中央図書館や点在する博物館的な施設を立地の良い市役所周辺に集約させることは、より多くの市民の利用促進及び都市核としての魅力向上につながる。本庁舎周辺の整備計画作成の際、市内各所に点在する公共施設及び文化的な施設の機能集約もあわせて検討すべきである。

2

公民館の実習室は本市でも稼働率が低く、実習以外の用途での利用も可としているが、今後、公民館のような施設で実習室が必要なのかを検討すべきである。